

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	静岡県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	大井川町立大井川南小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	4	2	21	30
児童数	110	87	102	106	111	136	7	659	

研究の概要

1. 研究主題

かかわり合って学ぶ子 ~確かな学力をつけるために~
---------------------------

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

全学年、算数で実施・・・1、2年・TT指導 3～6年・少人数指導 できるかぎり少人数の編成をすることにより、児童一人一人の実態にあったきめ細かな指導を充実させ、児童全員の「確かな学力」の向上を目指す。
---

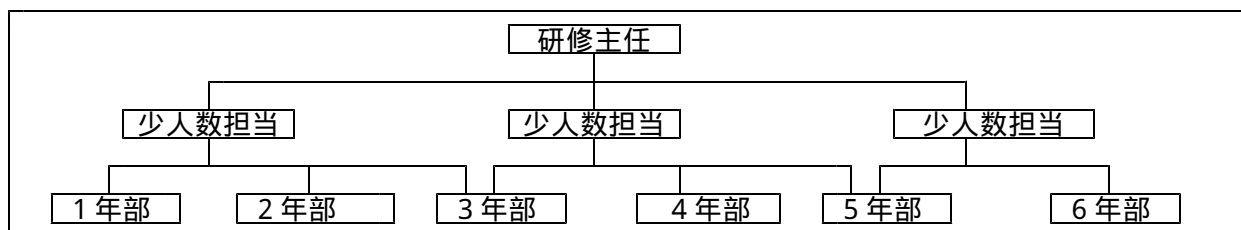
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 「進んで見つけ、考え、表現する子」 研究の見通し(仮説) ・子どもの理解力や習熟度にあった学習内容や活動を組むことにより、子どもたち一人一人が満足感や達成感を味わうことができ、学習意欲が増すだろう。 ・理解や習熟の度合いが似ている集団に属することにより、自分の考えを受け入れてもらえるという安心感をもって話をする事ができ、友だち同士のかかわり合いが増すだろう。</p> <p>研究内容・方法 ・習熟度別少人数指導の長所、短所の追究 ・習熟度別コース編成(集団づくり)の試行 ・評価の方法の工夫・・・数値的な表れと・個の表れの記録と価値付け 集団の伸び、個の伸びのデータの集積 ・習熟度に応じた指導過程の工夫(単元指導計画)</p>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ かかわり合って学ぶ子 ~確かな学力をつけるために~ 本年度は、児童の実態や重点目標から、求める児童像「かかわり合って学ぶ子」を研究主題とし、その延長線上に「確かな学力」があると考え、サブテーマとした。</p> <p>研究の見通し(仮説) ・学習の中でより良いかかわり合いをもつことで、考えが深まったり広がったりして、学力をより確かなものにしていくことができるだろう。 ・少人数編成や指導の工夫により、子どもたちの学習意欲が増し、個の学びやかかわり合いでの学びが充実し、確かな学力が身につくだろう。</p> <p>研究内容・方法 ・多様な少人数指導の研究 コース編成の工夫・コース別指導過程の工夫・コース別指導のための教材の開発 ・学力の評価の工夫 算数日記の活用・データ集積の工夫 ・基礎・基本の定着のためのドリル学習の工夫 ・個々の教師の授業力の向上</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ かかわり合って学ぶ子 ~確かな学力をつけるために~ 研究の見通し(仮説) ・学習の中でより良いかかわり合いをもつことで、考えが深まったり、広がったりして、学力をより確かなものにしていくことができるだろう。 ・少人数指導の工夫をすることにより、子どもたちの学習意欲が増し、個の学び、かかわり合いでの学びを大切にすることを通して、確かな学力が身につくだろう。</p> <p>研究内容・方法 ・個々の教師の授業力の向上・思考力を高めるためにかかわり合う場の工夫 ・多様な少人数指導の充実 コース別指導を効果的にするための諸条件の工夫 ・少人数指導を支える教育課程の工夫 個別指導や少人数の打合せの時間を生み出す週日課の工夫(70分授業の設置) 他</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・多様な少人数指導について研究してきた結果、子どもたちの学習意欲を高めるためには、単元によって、習熟度別コース編成、興味・関心別コース編成などを使い分けていくことが有効であることがわかった。
- ・定着度テストの結果を見ると、各学年とも県平均に近づいている。県平均を超えている学年も多かった。問題ごとの正答率では、県平均を上まわるものが多くなった。特に6年生では思考の問題の正答率が大変上昇している。(思考7問中6問が県平均を超えている。昨年度は県平均を超えたのは4問中0問)
- ・少人数指導についてのアンケートで3年生以上の児童の約80%が「算数ができる」と答えている。(6年生では昨年度の73%から80%へ7%増加)これは、児童が授業を通して算数の力がついてきていることを実感しているからであり、それによって3年生以上の児童の50%以上が算数を好きになったと答えている。算数に対する苦手意識もなくなってきており、算数の授業を楽しみにしている。
- ・3年生以上の保護者のアンケートから約70%の児童が家庭で少人数指導について話題にしていることがわかった。その結果、保護者の少人数指導に対する理解が深まってきている。来年度も授業参観などで積極的に少人数指導を公開し、保護者の理解を得ていきたい。
- ・授業の中にかかわり合いを意図的に取り入れてきたところ、友だちの意見を理解しようとして聞き、自分の考えと比べて考えることができる児童が増えてきた。

2. 今後の課題

- ・かかわり合いを大切に学習を進めるために、相手の思いをくみ取ろうという温かな聞き方ができるように、心情、技能の両面から学年の発達段階をふまえて指導していく。
- ・本時の目標に照らし合わせ、どのようなかかわり合いの場を設定していくかを研究し、1時間1時間の授業を充実させる。
- ・児童の学習の足跡や自己評価を算数日記として残していき評価につなげていく。
- ・日課表の中にドリル学習の時間を位置づけ、全校で取り組むことで、表現・処理の力の底上げを図りたい。
- ・学校便りや学年便りでの広報活動や、懇談会でのコース編成についての説明などを充実させる。

学力等把握のための学校としての取組

- ・「算数の力」・・・学期別学年平均点の分析・学年平均到達度の分析
- ・定着度テスト・・・前年度との学年平均点の比較  
観点別正答率の県平均との比較

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 平成15年度
- ・本年度、5回の授業研究会を他校に公開した。合計100名程度の参加者に本校の実践を紹介し、第5回の研究会では、研究のまとめを発表した。
- 平成16年度
- ・1月28日(金)に研究発表会を開催予定
  - ・ホームページのフロンティアの項目を整備する。



【新規校・継続校】	15年度からの新規校	✓ 14年度からの継続校
【学校規模】	6学級以下 13～18学級 25学級以上	7～12学級 ✓ 19～24学級
【指導体制】	✓ 少人数指導 一部教科担任制	✓ T・Tによる指導 その他
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		✓ 算数 図画工作 理科 家庭
		✓ 有                      無

ホームページアドレス  
メールアドレス

<http://www.ooigawaminami-e-s.ed.jp/>  
[ooigawasouth@mail.wbs.ne.jp](mailto:ooigawasouth@mail.wbs.ne.jp)